

既製服の購買行動における品質要求度に関する研究

—女子短大生と母親の場合（第2報 冬用衣料品）—

堀田 延子* 林 智子** 小泉 章代***
広瀬 明美**** 池 永彰作*****

1. 緒言

景気の波が底をついたとも言われているが、個人消費は相変わらず低迷が続いている。さらに追い打ちをかけるように、季節商品の代表である衣料品にとっては、マイナス要因になる暖冬宣言も出されている。アパレル業界では、SPA型小売業という新業態の専門店も出現して、より消費者ニーズに見合う製品の製造・販売に力を入れている。

このような時に、ファッションセンス豊かな女性の、世代差による「冬用衣料品」に対する品質要求度の違いを、品質要求項目・品目毎に数量化して検討し、第1報¹⁾で報告した「夏用衣料品」の結果と比較して考察することは、消費科学の研究題目とともに、衣料品の生産・消費の面からも緊急の必要事であろう。

2. 調査方法と調査項目

2-1 調査方法

調査方法は、用紙に印刷された設問に答えるアンケート方式で前報¹⁾と同様である。調査の対象は、平安女学院短期大学生生活学科衣生活専攻1・2年生200人とその母親170人である。本調査は1999年6～7月の間に行った。学生に関しては、配布時に記入させ回収した。母親は1週間の留め置き法で行った。

2-2 調査項目

調査項目も前報と同様である。

調査した品質要求項目は55項目であって、具体的な

内容は表5に示した。その55項目を分類すると下記のようなになる。8カテゴリーの大分類、さらに15カテゴリーの中分類でまとめた。

①審美的訴求	1 外観	3 項目
	2 ドレープ性	1 項目
	3 その他の外観	4 項目
②着心地	4 運動的機能	7 項目
	5 風合い	2 項目
	6 保健衛生的機能	7 項目
③形態安定性	7 型くずれ	4 項目
④扱いやすさ	8 洗濯性	4 項目
	9 仕上げ性	5 項目
⑤安全性	10 安全性	2 項目
⑥特殊な機能	11 特殊な機能	3 項目
⑦機械的強さ	12 生地 of 強さ	5 項目
	13 縫い目の強さ	1 項目
⑧理科学的抵抗性	14 耐変質・変色性	4 項目
	15 その他の抵抗性	3 項目

また、調査品目には合・冬用衣料の代表的なものを取り上げ、オーバーコート、スーツの上衣・ジャケット、ワンピース、スカート、セーター・カーディガンの5品目とした。それぞれの品目ごと、項目ごとに0～100までの11段階の要求度を点数で記入してもらった。記入する際には、評点を記入するだけでは内容が分かりにくいので、文字による尺度例を併せて提示し、評点基準を整えるようにした。

尚、この調査は1980年繊維製品消費科学に掲載^{2) 3)}されている『婦人衣料の品質要求度に関する研究』と同じ形式のものである。

3. 調査結果と考察

3-1 データの処理

3-1-① データの解析

調査方法のところでも述べたように、55項目5品目

* 本学生生活学科衣生活専攻教授（被服構成学）
** 本学生生活学科衣生活専攻実習助手（被服材料学）
*** 本学生生活学科衣生活専攻実習助手（被服構成学）
**** 本学生生活学科衣生活専攻実習助手（被服構成学）
***** 元本学生生活学科衣生活専攻教授（被服材料学）

を0～100までの11段階で記入してもらった。学生・母親別にそれぞれの評点の平均値を求め要求度とし、標準偏差及び変動係数も求めた。

$$\text{標準偏差 (SD)} = \sqrt{V}$$

$$\text{変動係数 (CV) (\%)} = (\text{SD} / \bar{X}) \times 100$$

V：分散 \bar{X} ：平均値

3-1-① データの集計

55項目の要求度及び標準偏差の品目毎の平均を求めた。その値を前述(2-2)の8カテゴリー大分類及び15カテゴリー中分類に集約した。

3-2 考察

3-2-③ 8カテゴリーにおける品質要求度

8カテゴリー5品目の品質要求度の平均でまとめたものを表1に示す。

母の表からカテゴリーの平均値の高い順にみると、「形態安定性」「安全性」「扱いやすさ」「機械的強さ」＝「理化学的抵抗」「特殊な機能」「着心地」「審美的訴求」の順になり、最高点と最低点の差は11.8にも達し、最低点の16.1%にもなる。形くずれが主題の「形態安定性」や「安全性」「扱いやすさ」などのどちらかと言えば、実用性能が上位にランクされ、「着心地」「審美的訴求」などの感覚性能が低く評価されていた。

同様に学生の結果を分析すると、「形態安定性」「理化学的抵抗」「扱いやすさ」「機械的強さ」「安全性」「特殊な機能」「審美的訴求」「着心地」の順である。最高・最低の点数差は13.6になり、最低点の19.4%にも達する。傾向は、母と同様と考えられるが要求度の差は一段と大きくなっている。学生の方が多様性、個性の差が大きいといえるだろう。

品目毎の要求度についてみると、母の場合要求度の平均値の高い順に、「スカート」「ワンピース」「ジャケット」「オーバーコート」＝「セーター・カーディガン」となるがその差は、僅か1.1程度であってあまり問題には成らないだろう。どの品目も適当に必要性があるということである。

学生の場合も、「ワンピース」「スカート」「ジャケット」「オーバーコート」「セーター・カーディガン」で、その差は、若干大きくなっても2.1であった。

カテゴリー、品目を総合して、母の最高点はジャケットの「形態安定性」、最低はオーバーコートの「審美的訴求」で、その差は16.2に達した。学生の最高はジャケットの「形態安定性」で、最低はオーバーコー

トの「審美的訴求」で、その差は17.9と母と全く同じ傾向を示した。母、学生共にオーバーコートにはおしゃれ感覚が他品目に比べて低いのであろうか、この現象についてはもう少し詳細に検討したい。

母・学生の要求度の違いを考察するために、母の要求度から学生のそれを減じたものを、表2に示した。表中の値が、+であれば母の要求度が大きく、-であれば学生の要求度が大きいことを表している。

カテゴリー・品目のいずれの要求度でも、両者は同様の傾向を示したが、その値は必ずしも同じではない。

カテゴリーで比較すると、平均値では「理化学的抵抗」「扱いやすさ」以外の6つのカテゴリーは、母の方が高い値を示した。特に「着心地」では、その差は学生の平均値の5.6%になった。逆に学生の方が大きい「扱いやすさ」のカテゴリーでは、その差は0.1で必ずしも学生が高い要求を出したとは断定しがたい。

品目では、すべてで母の方が高い平均値を示している。しかしその値は、最大差のセーター・カーディガンでも3%以下である。

カテゴリー・品目を総合して考察すると最大の差がみられたのは、母の方が大きいものではワンピースの「着心地」の4.4で、学生はスカートの「理化学的抵抗」の1.6であった。母の「形態安定性」「着心地」は、5品目ともに学生よりかなり高い要求度を示し、すべての衣服に対して「着心地」を重要視していることが分かる。それに比して、学生は「理化学的抵抗」のみ全ての品目で高い要求度を示していたが、これは現在被服に関する科目を履修していて、この項目に関心が高くなっているのかもしれない。母の「形態安定性」も学生より高い要求度を示しているが、「着心地」のことと共に、学生の世代の方が衣服を着装する時の関心がおおざっぱなのであろうかと考える。

また、各品目毎に8カテゴリーの要求度で、レーダグラフを描いたものを図1に示す。どの品目であっても、その形状は相似しており、母と学生の間には、カテゴリー間の認識の違いはないと言える。強いていえば「着心地」のカテゴリーでの差がみられる。全体に母の方が高い要求度を示している。これは夏物衣料の調査結果とは逆の現象である。

3-2-④ 15カテゴリーにおける品質要求度

15カテゴリー5品目の品質要求度のまとめを、表3にしめす。これを順位で示したのが表4である。

品目毎に必要な性の順位を、要求度の点数の高い方から順位づけをした結果を、スピーアーマンの順位相関

表1-① 8 カテゴリーの要求度及び変動係数

学生

品目 カテゴリー	オーバーコート		ジャケット		ワンピース		スカート		セーター・カーデイガン		平均		範囲	
	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数
審美的訴求	68.5	42.3	70.6	40.4	76.0	31.6	76.3	31.3	69.5	40.9	72.2	37.3	7.8	11.0
着心地	69.2	40.7	69.2	39.4	70.6	37.4	70.6	37.0	70.5	39.3	70.0	38.8	7.7	3.7
形態安定性	83.8	23.5	86.4	20.6	84.2	22.0	83.5	23.0	80.0	27.6	83.6	23.3	6.4	5.6
扱いやすさ	79.4	32.0	81.3	28.0	83.3	24.7	83.4	24.9	80.2	28.6	81.5	27.6	4.0	7.3
安全性能	77.7	32.1	78.5	30.4	81.0	27.9	80.8	28.5	81.6	27.7	79.9	29.3	3.9	4.4
特殊な機械的強度	81.9	28.2	80.9	28.2	75.0	32.5	74.8	32.8	75.1	32.5	77.5	30.8	7.1	4.6
理化学的抵抗性	81.8	29.7	82.2	27.4	83.1	26.0	82.5	26.9	81.0	28.6	80.2	27.1	2.1	2.2
平均	77.9	31.9	78.7	30.1	79.2	28.6	79.0	28.9	77.1	31.7	82.1	27.7	2.1	3.7
範囲	20.9	18.8	17.2	19.8	13.6	15.4	12.8	14.0	11.1	13.3				

表中：要求度 (点)
変動係数 (%)

表1-② 8 カテゴリーの要求度及び変動係数

母

品目 カテゴリー	オーバーコート		ジャケット		ワンピース		スカート		セーター・カーデイガン		平均		範囲	
	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数
審美的訴求	70.4	38.5	72.9	33.1	76.6	27.1	75.0	29.4	71.5	33.6	73.3	32.3	6.2	11.4
着心地	73.3	32.3	73.1	32.4	75.0	28.7	74.6	28.7	73.6	31.4	73.9	30.4	1.9	3.7
形態安定性	86.0	19.8	86.6	18.1	85.0	18.4	85.3	18.1	82.4	21.6	85.1	19.2	4.2	3.5
扱いやすさ	79.5	26.0	80.3	24.0	82.1	21.6	83.3	20.1	81.9	22.4	81.4	22.8	3.8	5.9
安全性能	80.3	27.3	80.6	26.3	83.2	23.1	83.4	23.3	86.0	21.1	82.7	24.2	5.7	6.2
特殊な機械的強度	83.7	22.4	81.5	24.0	78.2	26.6	79.0	26.3	78.9	26.1	80.3	25.1	5.5	4.2
理化学的抵抗性	81.5	22.8	81.0	22.5	80.5	22.4	82.2	21.6	80.3	23.1	81.1	22.5	1.9	1.2
平均	80.3	26.5	81.1	24.2	82.2	25.5	81.5	23.6	80.5	25.2	81.1	25.0	1.9	2.9
範囲	79.4	27.0	79.6	25.6	80.4	24.2	80.5	23.9	79.4	25.6				
	15.6	18.7	13.7	14.3	10.0	10.3	8.8	11.3	14.5	12.5				

表中：要求度 (点)
変動係数 (%)

表2 8カテゴリーの要求度の差 比較表

カテゴリー	オーバーコート	ジャケット	ワンピース	スカート	セーター・カーディガン	平均
審美的訴求	+1.9	+2.3	+0.6	-1.3	+2.0	+1.1
着心地	+4.1	+3.9	+4.4	+4.0	+3.1	+3.9
形態安定性	+2.2	+0.2	+0.8	+1.8	+2.4	+1.5
扱いやすさ	+0.1	-1.0	-1.2	-0.1	+1.7	-0.1
安全性	+2.6	+2.1	+2.2	+2.6	+4.4	+2.8
特殊な機能	+1.8	+0.6	+3.2	+4.2	+3.8	+2.8
機械的強さ	+4	+0.3	+0.3	+2.2	+1.3	+0.9
理化学的抵抗性	-1.5	-1.1	-0.9	-1.6	-0.5	-1.0
平均	+1.5	+0.9	+0.9	+1.5	+2.3	

表中の数値は、(母の要求度) - (学生の要求度) で示し、

+ならば母、-ならば学生の要求度が高いことを表わす。

係数で判定すると、0.9以上の高い正の相関がみられた。ただ、ワンピースだけは、0.891と0.9をきっていて、母と学生で順位異なるカテゴリー数も10と多く、特に「洗たく性」は母8位、学生3位と5段階も順位が異なる。このようにワンピースは、母と学生とで品質の必要性に対する考え方が異なる。これは、着用頻度から生まれるものかもしれない。

カテゴリーで考察すると母・学生ともに要求度の高い項目は、「縫い目の強さ」であり、5品目中4品目で両者はこの項目を1位にランクしており、2位にランクした母のセーター・カーディガンでも1位の「安全性」との差は1.1と僅差であり、「縫い目の強さ」は重要視された項目と言える。次いでランクの高いカテゴリーは、「外観」で、母で3位、学生で2位である。美しい外観を求める気持ちに年齢差のないことを暗示している。母の2位にランクされている「形くずれ」は、学生でも4位であり、同様の傾向にあると言える。実用的性能では、「その他の抵抗性」が母で4位、学生で3位にあって、「耐変質・変色性」よりも上位に位置しているのは、消費者が「色」の変化よりも「素材」の強さにより関心のあることを示したものと考えることができよう。

逆にランクの低い項目は、「ドレープ性」「その他の外観」「運動的機能」「風合い」「保健衛生的機能」の5項目が、平均して下位の5項目を占めている。ただ、母と学生との違いでは「その他の外観」と「保健衛生的機能」の順位が14位と13位と入れ替っているだけである。また、「運動的機能」の項目は、母のワンピースは6位、スカートは8位と上位にランクされていて、

学生とは異なっている。これは「すべりやすさ」「動いたときのひだの出具合い」などの着心地に関する項目の、要求度が高いのが理由と考えられるが、これは8カテゴリーでも全体的に表われていたが、母の方がより感覚的な性能に必要性を求めていると考えられる。

カテゴリーの要求度の差の比較を平均値でみると、15カテゴリー中11カテゴリーで母の方が平均値が高くでている。最大差は「ドレープ性」の7.1で、これは学生の平均値の12.9%に達する。ついで、「風合い」の5.4、「運動的機能」の3.8、「保健衛生的機能」の3.7となり、美的要素とか着心地に関するものの差が大きく、このような品質に対しての要求には着用者の生活経験による違いがみられる。学生の方が高いカテゴリーは、4カテゴリーに過ぎず、その要求度の違いも2以下と僅差といえるが、「洗たく性」に最も大きな差がある。カテゴリーの要求度は、全体として母の方が大きな値を示している。

品目毎の要求度は、5品目とも、平均値では母の方が高いが、その差は最大で2.2であり、カテゴリー間の差程大きくない。個々の値の差では、母の方が高いものでは、「ドレープ性」のジャケットの8.6、オーバーコートの8.5、スカートの8.4などであるが、「ドレープ性」の要求度が5品目の平均値で(表3)、母の62.3、学生の55.2とカテゴリーの最下位に判定され、冬物衣料では重視されない項目になっている。次いで差の大きいものは、「風合い」のジャケットの7.9、オーバーコートの5.9、ワンピースの5.6などである。この「風合い」も、母と学生とも15カテゴリー中12位にし

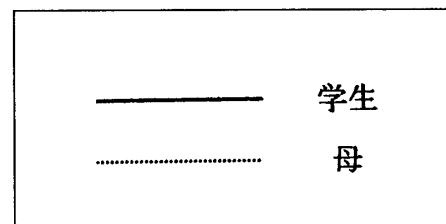
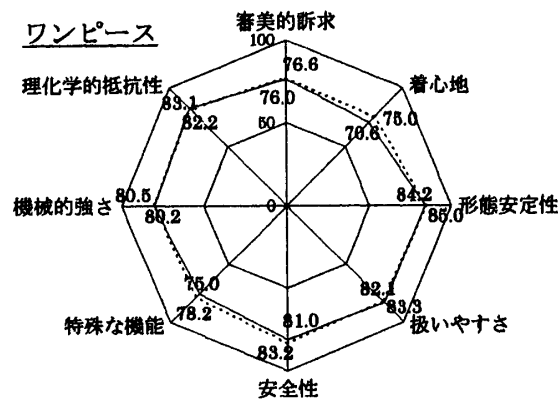
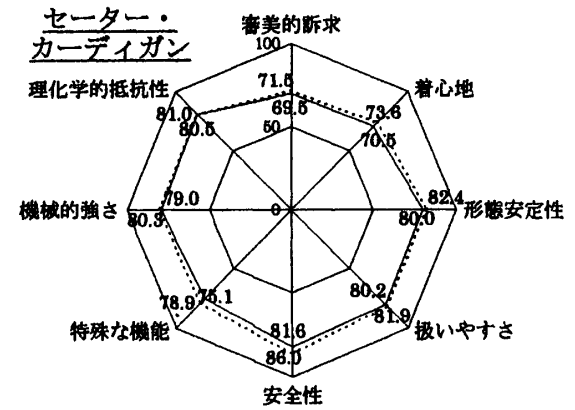
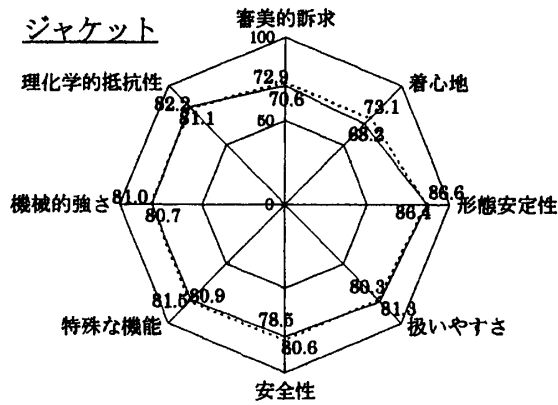
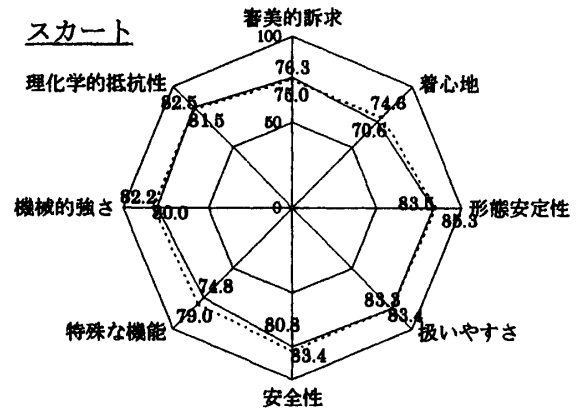
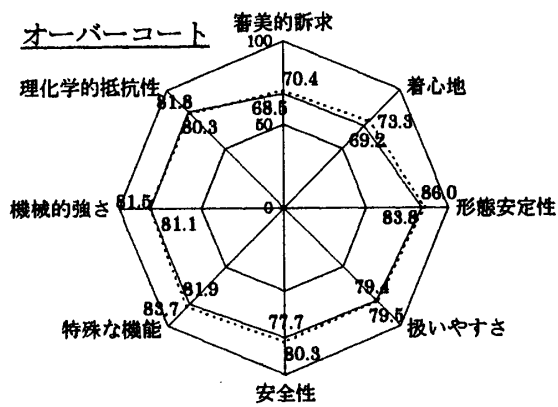


図1 品目別要求度の比較

表3-1-① 15カテゴリーの要求度及び変動係数

学生

大分類	中分類	オーバーコート		ジャケット		ワンピース		スカート		セーター・カーデガン		平均		範囲	
		要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数
審美的訴求	外観	85.3	20.1	86.7	19.7	85.8	19.9	85.2	20.9	82.8	24.0	85.2	20.9	85.2	3.9
	ドレープ性	48.3	64.2	51.8	65.0	63.9	45.8	67.8	41.2	44.2	74.2	55.2	58.1	23.6	33.0
	その他の外観	60.9	53.4	63.2	49.7	71.7	36.9	71.8	36.7	65.9	45.3	64.7	44.1	10.9	16.7
着心地	運動的機能	70.9	35.4	74.1	33.0	77.9	28.1	79.1	26.8	74.2	34.1	75.2	31.5	8.2	7.3
	風合い	73.3	34.3	68.4	36.6	71.0	35.2	70.4	35.3	75.6	33.7	71.7	35.0	4.9	2.9
	保健衛生的機能	66.3	47.8	64.4	46.5	63.1	47.4	62.2	47.6	65.4	46.2	64.3	47.1	4.1	1.6
形態安定性	形くずれ	83.8	23.5	86.4	20.6	84.2	22.0	83.5	23.0	80.0	27.6	83.6	23.3	6.4	7.0
	洗たく性	78.5	30.1	81.4	27.1	85.8	21.0	85.8	21.3	83.1	24.1	82.9	24.7	7.3	9.1
	仕上げ性	80.2	33.6	81.2	28.7	81.3	27.6	81.5	27.8	77.9	32.1	80.4	30.0	3.6	6.0
やすさ	仕上り	80.2	33.6	81.2	28.7	81.3	27.6	81.5	27.8	77.9	32.1	80.4	30.0	3.6	6.0
	安全	77.7	32.1	78.5	30.4	81.0	27.9	80.8	28.5	81.6	27.7	79.9	29.3	3.3	4.4
	特殊な機能	81.9	28.2	80.9	28.2	75.0	32.5	74.8	32.8	75.1	32.5	77.5	30.8	7.1	4.6
機械的強さ	生地	79.5	28.7	79.1	27.8	78.9	27.7	78.7	28.3	78.1	29.2	78.9	28.3	1.4	1.5
	縫い目の強さ	89.1	17.7	88.2	19.2	86.6	21.2	86.4	21.3	83.3	25.9	86.7	21.1	5.8	8.2
	耐変質・変色性	80.7	30.0	80.5	29.0	81.0	28.3	80.0	29.5	79.3	29.9	80.3	29.3	1.7	1.7
抵抗性	耐変質・変色性	83.3	29.5	84.4	25.2	86.0	22.9	85.9	23.3	83.3	26.9	84.6	25.6	2.7	6.6
	その他の抵抗性	76.0	33.9	76.6	32.4	78.2	29.6	78.3	29.6	75.3	34.2	84.6	25.6	2.7	6.6
	15カテゴリーの平均	40.8	35.7	36.4	30.5	22.9	27.5	24.2	26.7	39.1	50.2	表 中 ： 要 求 度 (点)	表 中 ： 要 求 度 (点)	変 動 係 数 (%)	変 動 係 数 (%)
15カテゴリーの範囲															

表3-1-② 15カテゴリーの要求度及び変動係数

母

大分類	中分類	オーバーコート		ジャケット		ワンピース		スカート		セーター・カーデガン		平均		範囲	
		要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数
審美的訴求	外観	81.6	16.1	86.6	15.8	86.2	16.0	83.9	18.0	81.9	20.8	84.0	17.3	5.0	4.8
	ドレープ性	56.8	56.2	60.4	48.5	68.2	38.3	76.2	28.2	49.8	63.2	62.3	46.9	26.4	35.0
	その他の外観	62.0	50.9	65.7	42.3	71.5	32.7	68.1	38.3	69.1	35.8	67.3	46.9	9.5	18.2
着心地	運動的機能	75.5	27.6	77.4	25.9	82.3	21.5	83.2	20.2	76.5	27.7	79.0	24.6	7.7	7.5
	風合い	79.2	22.5	76.3	23.5	76.6	22.5	74.3	24.3	79.3	22.9	77.1	23.1	5.0	1.8
	保健衛生的機能	69.5	39.9	67.9	41.4	67.3	37.6	66.1	38.5	69.0	37.5	68.0	39.0	3.4	3.9
形態安定性	形くずれ	86.0	19.8	86.6	18.1	85.0	18.4	85.3	18.1	82.4	21.6	85.1	19.2	4.2	3.5
	洗たく性	77.9	26.3	79.0	24.2	81.9	20.9	83.4	19.4	82.9	20.3	81.0	22.2	4.4	6.9
	仕上げ性	80.8	25.7	81.5	23.8	82.3	22.2	83.3	20.7	81.1	24.0	81.8	23.3	2.5	3.3
やすさ	仕上り	80.3	27.3	80.6	26.3	83.2	23.1	83.4	23.3	86.0	21.1	82.7	24.2	5.7	6.2
	安全	83.7	22.4	81.5	24.0	78.2	26.6	79.0	26.3	78.9	26.1	80.3	25.1	5.5	4.2
	特殊な機能	80.2	24.1	79.6	23.9	79.1	23.7	81.0	22.3	79.4	23.8	79.9	23.6	1.9	1.8
機械的強さ	縫い目の強さ	88.1	15.9	88.0	15.8	87.4	15.9	88.0	17.6	84.9	19.6	87.3	17.0	3.2	3.8
	耐変質・変色性	79.5	26.2	79.7	25.1	81.1	23.3	79.5	25.6	79.4	25.8	79.8	25.2	1.7	2.9
	その他の抵抗性	81.4	26.9	83.1	23.1	83.8	21.5	84.3	21.0	82.0	24.4	82.9	23.4	2.9	5.9
15カテゴリーの平均		77.5	28.5	78.3	26.8	79.6	24.3	79.9	24.1	77.5	27.6	表 中 ： 要 求 度 (点)	表 中 ： 要 求 度 (点)	変 動 係 数 (%)	変 動 係 数 (%)
	15カテゴリーの範囲	31.3	40.1	27.6	32.7	18.0	21.6	21.9	20.9	36.2	43.6				

表4 15カテゴリーの品目順位比較表

中分類	オーバーコート		ジャケット		ワンピース		スカート		セーター・カーディガン		平均	
	母	学生	母	学生	母	学生	母	学生	母	学生	母	学生
外観	4	2	2	2	2	3	4	4	6	4	3	2
ドレープ性	15	15	15	15	14	14	12	14	15	15	15	15
その他の外観	14	14	14	14	13	12	14	12	13	13	14	13
運動的機能	12	12	11	11	6	10	8	10	12	12	11	11
風合い	10	11	12	12	12	13	13	13	10	10	12	12
保健衛生的機能	13	13	13	13	15	15	15	15	14	14	13	14
形くずれ	2	3	2	3	3	5	2	5	4	6	2	4
洗たく性	11	9	10	5	8	3	5	3	3	3	7	5
仕上げ性	6	7	5	6	6	6	7	6	7	9	6	6
安全性	7	10	7	10	5	7	5	7	1	5	5	8
特殊な機能	3	5	5	7	11	11	11	11	11	11	8	10
生地の強さ	8	8	9	9	10	9	9	9	8	8	9	9
縫い目の強さ	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1
耐変質・変色性	9	6	8	8	9	7	10	8	8	7	10	7
その他の抵抗性	5	4	4	4	4	2	3	2	5	1	4	3
上位個数	5	4	4	1	5	5	4	5	3	4	4	5
順位相関係数	0.939		0.929		0.891		0.938		0.914		0.939	

*順位相関係数は、スピーアーマンの順位相関係数(rs)による。

かランクされず(表4)、要求度平均も77.1、71.7と低い。「ドレープ性」「風合い」は合・冬用衣料にはあまり要求されず、特に学生の世代ではその傾向が顕著である。

学生の方が高いものは、数的にも少なく、またその差も僅差であるが、その中の最大値はワンピースの「洗たく性」の3.9である。この背景には、ワンピースの「素材」「縫製」などの関係で、家庭での洗たくの可否、その方法などに注意が向けられた結果であろう。母のように、ワンピースはクリーニング店にという、固定観念はくずれているのではないか。

また、品目毎のカテゴリー間の要求度の範囲は、平均すれば学生の方が大きくなる。学生で最大の値を示すのは「オーバーコート」の40.8で、この品目の平均値の53.7%にも達する。次いで「セーター・カーディガン」の39.1、51.9%で、最小は「ワンピース」の22.9である。母では、最大は「セーター・カーディガン」の36.2、46.7%、次いで「オーバーコート」の31.3、43.4%であり、最小は「ワンピース」の18.8である。これは、「オーバーコート」「セーター・カーディガン」の様に、季節性の高い衣服は着用季節やあるいは衣服のデザインによって、例えば「縫い目の強さ」「形くずれ」「外観」と「ドレープ性」「風合い」「保健衛生

的機能」の様に必要、不必要の判断が明確に別れるためであろう。これに対して「ワンピース」のように、それぞれの季節に適応したものがあり、「外観」にもそれ相当の必要が認められるものは、要求度の差が少なくなると考えられる。

3-2-③ 55項目における品質要求度

55項目の品質要求度のまとめを表5にしめす。この表は要求度の集計した数値を記号化したものである。記号化の水準は表の欄外に示す。

ここでも、母の方が記号で読み取れる傾向ではやや高く表れている。母の方が高い要求度を示すものは、5品目52項目に及ぶが、記号表示で2段階の差になるものは1箇所もなかった。学生の方が高いものは、5品目6項目に過ぎず、両者に差のみられない項目は55項目中26項目と47%に達するが、すべての品目に差が生じた。項目で考察すると、全品目とも母の方が高い要求度を示すものに、「光沢のよさ」「すべりやすさ」「温かさ」の3項目である。4品目で高いものに「動いたときのひだの出具合い」がある。学生の高いものは、5品目全てにわたるものは一つもなく、4品目で「デザインのよさ」「全体的な変形のしにくさ」の2項目のみである。この結果を強いて言えば、母は広義の

表5 55項目における品質要求度

大分類	中分類	品質要求項目	オーバーコート		ジャケット		ワンピース		スカート		セーター・カーデガン	
			母	学生	母	学生	母	学生	母	学生	母	学生
審美的訴求	外観	デザインのよさ	◎	☆	◎	☆	☆	☆	◎	☆	◎	☆
		きれいな縫製仕上げ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		布地の見た目のよさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ドレープ	ひだので出具合い	×	×	△	×	△	△	○	△	×	×
	その他の観	色のよさ	◎	◎	◎	◎	◎	☆	◎	☆	◎	◎
		柄のよさ	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○
		光沢のよさ	△	×	△	×	△	×	△	×	△	×
透けて見える度合い		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
着心地	運動的機能	着やすく、動きやすいデザイン	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		寸法がよく合う	◎	◎	☆	☆	☆	☆	☆	☆	◎	◎
		布地の身体へのなじみやすさ	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		布地の伸び縮みやすさ	△	△	○	○	○	○	○	○	◎	○
		すべりやすさ	△	×	○	×	○	△	○	△	△	×
	風合	動いたときのひだの出具合い	△	×	△	×	○	△	○	△	×	×
		静電気でまつわりつかない	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		手ざわりや肌ざわりのよさ	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎
		さわった暖かい感じや冷たい感じ	○	○	○	△	○	△	△	△	○	△
		軽さ	◎	○	◎	○	○	○	○	△	○	○
保健衛生的機能	しめりやすさ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	ぬれやすさ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	むれにくさ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	空気の通りやすさ	×	×	△	△	△	△	△	△	△	△	
	温かさ	☆	◎	○	△	△	×	△	×	◎	○	
形態安定性	形くずれ	不快なおいがない	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		しわのつきにくさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
		伸び縮みによる形くずれのしにくさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		布地のふくらみの失いにくさ	◎	○	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
扱いやすさ	洗たく性	全体的な変形のしにくさ	◎	☆	◎	☆	◎	○	◎	◎	◎	◎
		汚れのつきにくさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		洗たくのしやすさ	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		汚れのとれやすさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	仕上げ性	乾きやすさ	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○
		ほつれにくさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		アイロンやプレスのしやすさ	○	△	○	○	○	○	◎	○	○	△
		付属品のこわれにくさ	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	○
安全性		補修のしやすさ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		虫のつきにくさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
特殊な機能		皮膚に対する安全性	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		燃えにくさ	○	○	○	○	○	○	◎	○	◎	○
		水のはじきやすさ	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○
機械的強さ	生地	水の透りにくさ	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
		寒さによる変質のしにくさ	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎
		引張り強さ	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		引き裂き強さ	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
		破裂強さ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
理化学的抵抗性	耐変質・変色性	摩擦強さ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		衝撃強さ	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
		縫い目の強さ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		汗による変質・変色の少なさ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	その他の抗	光による変質・変色の少なさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		ガスによる変質・変色の少なさ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		蒸気による変質・変色の少なさ	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
低	抗	洗剤・漂白剤・しみぬき剤に対する強さ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		アイロンなど熱に対する強さ	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
他	性	カビやバクテリアのつきにくさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

90点以上☆ 80点台◎ 70点台○ 60点台△ 59点以下×

着心地、学生は見た目に重点を置いていると言える。母、学生に差の生まれなかった項目には、要求度の高いもので「きれいな縫製仕上げ」「着やすく、動きやすいデザイン」「不快なおいが無い」「伸び縮みによる形くずれのしにくさ」「汚れのつきにくさ」「汚れのとれやすさ」「虫のつきにくさ」「縫い目の強さ」「光による変質・変色の少なさ」「洗剤・漂白剤・しみ抜き剤などに対する強さ」「カビやバクテリアのつきにくさ」があり外観、実用性、耐久性などの性能に共通理解がみられる。逆に不必要性であると判断された項目には、「透けて見える度合い」「しめりやすさ」「ぬれやすさ」であって、これは冬物衣料としては、当然の結果と言える。

品目では、全品目とも母の方が要求度の高い項目が多く、その数が最も多かったのは、13項目で差のあったオーバーコートで、次いで11項目のスカート、10項目のセーター・カーディガン、9項目のジャケット、ワンピースである。しかし、実際には両者に差のなかった項目が最も多く、44項目の「ジャケット」「セーター・カーディガン」43項目の「ワンピース」39項目の「オーバーコート」「スカート」となり、平均しても76%の項目に差が生じなかった。これは、品目で母と学生の世代で特に着用目的などに意識差のないことを表していると考えられる。

ただ、品目毎の最高要求度はオーバーコートで母は「温かさ」学生は「デザインのよさ」、ジャケットで母は「寸法がよく合う」学生は「デザインのよさ」、ワンピースで母は「寸法がよく合う」学生は「デザインのよさ」、スカートで母は「寸法がよく合う」学生は「デザインのよさ」、セーター・カーディガンで母は「皮膚に対する安全性」学生は「デザインのよさ」となり、母の方が実用性能やサイズに焦点があたっているのに対して、学生は外観の美しさを重視していることが分かる。

冬物衣料のように、共通理解のある衣服に対しては母と学生に意識の差のないことは、ほかの調査でも推察することが出来る。日本衣料管理協会の行っている「実態調査」^{4) 5)} から、「使用しなくなった理由」および「購入時の最重点項目」をその頻度から順位づけをして「順位相関係数」を求めその結果、すべて0.720以上の高い正の相関が認められた。この調査で取り上げられたこれらの品目の衣服に対しては、母と学生は同じ考え方で取り扱っていると言える。

4. 総括

本調査において、集計・考察の結果を要約すると次のようになる。

- ① 8カテゴリーの品質要求度では、6つのカテゴリーで母の方が高い値を示している。学生の方が高いのは2つのカテゴリーにすぎず、そのうちの1つは、0.1と僅差であった。8カテゴリーのレーダーグラフでは、その形状は相似になっており、カテゴリー間には共通の認識が存在すると言える。
- ② 15カテゴリーでは、要求度の高い項目「縫い目の強さ」、「外観」、「形くずれ」、低い項目「ドレープ性」、「その他の外観」、「保健衛生的機能」で両者に共通点が見られた。しかし、カテゴリーの平均では学生の方が高い値になっている。品目毎の要求度においても、両者の認識の違いは明瞭ではないが、ワンピースにやや違いが見られた。
- ③ 55項目では、記号表示で両者に差がない箇所が、全体の76%と両者は同程度の品質を要求していると言える。強いていえば母の方は実用性能やサイズに焦点があたり、学生は外観の美しさを重視している傾向がみられた。
- ④ 前回（第一報）の発表とは異なり、要求度は強いて表現すれば母の方が高く、夏用衣料品と反対の結果といえるが、同程度の要求度であるとする方が正しいかもしれない。
- ⑤ 夏用衣料品の中にあつたような「サマーセーター」や「Tシャツ」のような両者において認識の異なるような衣料品はなかった。つまり、冬物衣料品のように着用目的などに共通に認識があれば、母と学生の間には要求度に大きな違いは生じないものと言える。

5. 参考文献

- 1) 堀田延子他 3 名：平安女学院短期大学紀要、29、63～70 (1998)
- 2) 池永彰作、北田総雄他 3 名：繊維製品消費科学、Vol.21 No.11、36～50 (1980)
- 3) 池永彰作、森田智子他 2 名：繊維製品消費科学、Vol.22 No.12、39～46 (1981)
- 4) 日本衣料管理協会監修：衣料の取得と廃棄の実態調査、(平成 4 年12月版) (1992)
- 5) 日本衣料管理協会監修：衣料の使用実態調査 (平成10年12月～平成11年 1 月調査分) (1999)

謝 辞

本調査研究を実施するにあたり、アンケート調査にご協力下さいました本学生活学科衣生活専攻 1・2 年生の学生諸姉、並びに母親の方々に厚く御礼申し上げます。

なお、本調査研究は平成11年度私学研修福祉会（共同研究）、並びに平安女学院短期大学特別個人研究費の助成によるものである。